

# 「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り⑫

カリキュラム・マネージャー

## 令和7年度重点に「交流及び共同学習」・・・中高養

このほど、中高養では校長先生から令和7年度の中高養グランドデザインが示されました。

グランドデザインには学校教育目標の実現に向けた教育課程実施上の重点として「交流及び共同学習」が位置付けられています。

また、教職員の働き方の重点として「学び合い」が上げられており、本年度「モデル事業」の一環で取り組んだ、2学年交流学习、共に学ぶ会、連携校の授業や講演会への参加などは、来年度の学校運営上、大切な教育活動のひとつとして進める必要があると思われま

### 保護者向け説明会実施

12月7日(土)更農を会場に中高養の校長先生によるモデル事業の説明会が行われ、中高養の保護者もオンラインで視聴しました。

校長先生はモデル校の役割は「交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方」「現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方」を観点に取り組み、その成果を全道や全国に発信することと説明し、本年度の実践を例に上げながら保護者等の理解を求めました。

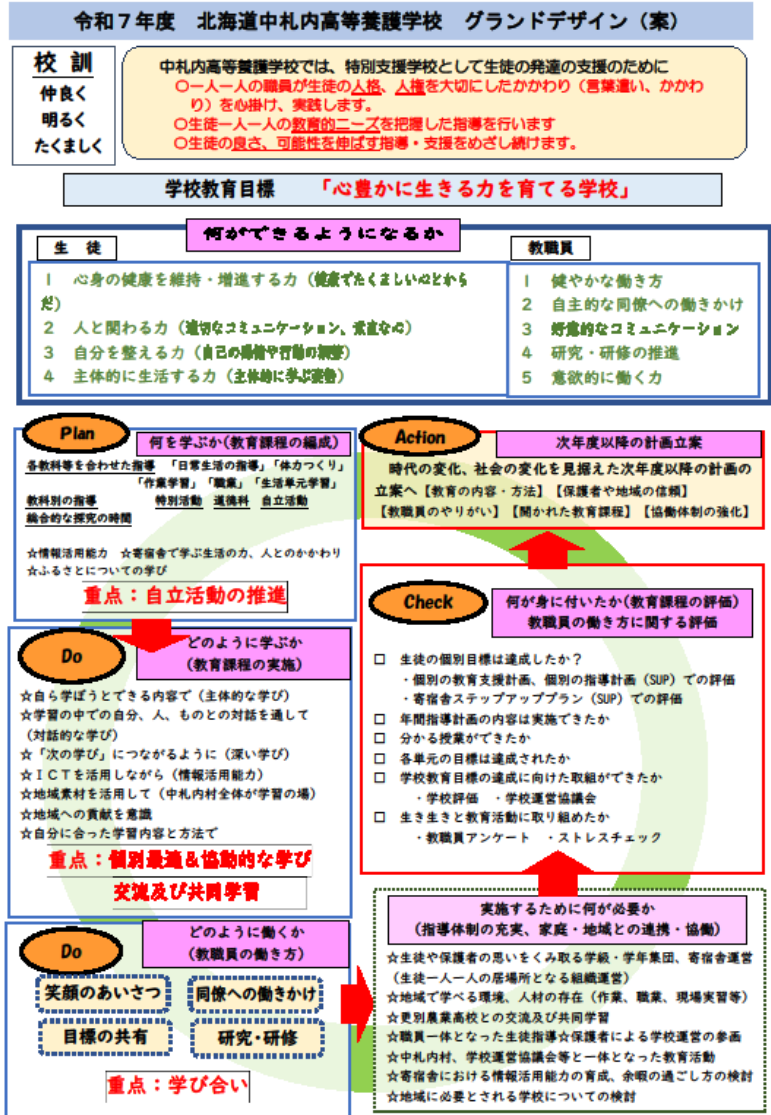
中高養に戻った校長先生は、保護者から「未来の子どもたちのためになるということです」と声をかけられたとのことです。

写真左 更農

写真右 中高養2年



※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。



## センシティブな生徒に向き合う…第3回「共に学ぶ会」

12月12日(木)「ささいな言動に振り回される傾向のある生徒の理解と対応」をテーマに第3回共に学ぶ会が実施されました。冒頭、ファシリテーターを務める先生(中高養)から、テーマに関係する「先天的な気質」について説明を受け、その特徴を手がかりに生徒理解と対応策を考えるというアプローチがあることを学びました。



更農の様子

更農側の事例として取り上げたのは、中学校時代を不登校で過ごし、高校入学後は1日も休まず登校している生徒で、参加されていた担任の先生は、「この生徒に『真面目に頑張っていることがあほらしい』とは思わせたくない」と胸の内を語って下さいました。

### 現在までの実施状況と今後の予定

- (1) 第1回 10月25日(金) 10:55~11:45(50分) 更農7名 中高養4名  
テーマ「優先順位を無視しがちな生徒の理解と対応」
- (2) 第2回 11月19日(火) 10:50~11:40(50分) 更農7名 中高養7名  
テーマ「場面緘黙の傾向のある生徒の理解と対応」
- (3) 第3回 12月12日(木) 13:25~14:15(50分) 更農5名 中高養7名  
テーマ「他人のささいな言動に振り回される傾向のある生徒の理解と対応」
- (4) 第4回 1月29日(水) 15:45~16:35(50分) ※更農において対面で実施  
テーマ「作業や学習が止まると、その後の継続が難しい生徒への理解と対応」
- (5) 第5回 2月25日(火) 13:25~14:15(50分)  
テーマ「整理整頓ができず日常生活に影響がでている生徒の理解と対応」
- (6) 第6回 3月13日(木) 13:25~14:15(50分)  
テーマ「苦手なことには初めから取組もうとしない生徒の理解と対応」

## モデル事業活動報告会

12月20日(金)公開研究会で、会場及びオンラインの参加者に向けて、この一年間の取組について太田校長先生はじめ各担当者から説明がありました。

説明は、モデル事業の趣旨と概要、推進体制、アンケート結果、教員研修機会の拡大、共に学ぶ会、通信「ふきのとう」の活用、改善された2学年交流学习等で、研修の場面や交流学习などの様子は、写真や動画などでも紹介されました。

また、その後の講演会でも、講師の先生からこの事業の意義等について触れていただきました。

講師 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部 学校連携支援担当  
上席総括研究員(命)調整担当部長 丹野 哲也氏

会場には更農の先生方も多数参加され、来校できない先生方はオンラインで説明を聞かれたそうです。